



難波の梅小だより

学校通信 NO. 4
平成 28. 6. 1
難波の梅小学校

難波の梅小ホームページアドレス <http://www.ama-net.ed.jp/school/E04/index.html>

気持ちも新たな子どもたち！

校長 清 昌司

汗ばむ季節となりました。地域・保護者の皆様にはご清祥にお過ごしのこととお喜び申し上げます。6月下旬からはプールも始まり、さぞ子どもたちも楽しみにしていることと思います。梅雨入りは仕方ありませんが、例年何度か雨でプールに入れない時があり、子どもたちの恨めしそうな顔を思い出すと、琵琶湖の水位が下がらない程度に、降雨が少ないのを願うばかりです。

さて、6月4日(土)に新校舎で初めての体育大会を実施します。子どもたちは気持ちも新たに毎日練習に精一杯取り組んでおり、すばらしい体育大会になるだろうと楽しみです。6年生にとっては最後の体育大会です。新しい校舎での一生忘れられない思い出に残る体育大会になることでしょう。たくさんの方々のご来校をお待ちしております。



—朝会の話(5月10日)より—

…今日うれしいお話を三つします。

うれしいお話の一つ目です。毎日信号の所に立ってあいさつをしていますが、左側通行ができる人が増えてきました。中には、「左側歩きやー」と高学年の人が低学年の人に注意をしてくれています。うれしいですね。合わせて元気なあいさつができる人も増えてきました。花まる五重まるです。その調子です。帰りは建物側、右側を歩くようにしてください。

うれしいお話の二つ目です。時々校舎の中を見回っていますが、どの学年も勉強や掃除にがんばっている人が増えてきました。見回っていてそのことがよく分かります。新しい校舎で新しい気分でがんばろうとしています。うれしい限りです。

うれしいお話の三つ目です。皆さんも知っているように、正門の所を鯉のぼりが元気に泳いでいます。また、壁に絵が飾られていたり、校舎内の整理整頓がされています。すべて校務員さんがみんなのことを思って、一生懸命にしてくれています。ありがたいことです。感謝したいと思います。

昨日、今日と雨が降っています。雨の日は傘などで車や自転車が見えにくくなりますので、特に気をつけましょう。

—家庭訪問を終えて—

4月末から5月の初めにかけて、家庭訪問をさせていただきました。お仕事や家事等、ご都合をつけていただき有難うございました。

この時期になるといつも思い出すことがあります。自分が子どものころの家庭訪問というと、母親はいつになく大急ぎで玄関先を掃除し、自分も担任教師の家庭訪問をソワソワ・ワクワク・ハラハラして待っていました。母親は必ずと言っていいほど、「学校でもビシバシと厳しくお願いします」と。後で担任教師が帰ってから、「学校に呼び出されることのないように」と、これまた厳しくお達しがでたこともよく覚えています。我々教員も家庭訪問をすることで、かけがえのないお子さんの存在を再認識させられます。いずれにしましても、各ご家庭との連携を深めていく第一歩にしたいと思います。ご支援、ご協力の程よろしく申し上げます。



—参観・PTA総会を終えて—

5月の参観・PTA総会に保護者や地域の皆様には多数ご来校いただきまして有難うございました。子どもたちの少

ずつ成長している様子を感じていただければ幸いです。また、PTA総会に向けて、執行部・役員さんや各部・各クラス委員さんの皆さま方には大変お世話になり、本当に有り難うございました。どこの学校でもPTAの組織作りが困難になってきていることを思いますと、総会の日を迎えるまでにどんなにご苦労があったことでしょうか。改めて無事に総会を終えられたことを心より感謝申し上げます。この一年、新執行部の役員さんの組織のもと、各部会・各学級委員さんには大変お世話になりますが、どうか宜しくお願い申し上げます。

ー集中健康診断・測定についてー

4月、5月、6月と春の集中健康診断・測定を実施しています。視力・聴力・歯科・耳鼻科に内科検診、尿検査、心電図、身体測定等々。毎年の健康診断・測定によって様々な体調不良や病気が見つかる場合が多いです。直接子どもたちの身体に関わることで、要治療の必要が認められた時には速やかに対応くださいますようお願いいたします。



以前、日本教育新聞にある大学教授の児童虐待についての話が掲載されていました。読んでいて胸に突き刺さるような内容でしたので紹介します。

…28歳のM子は結婚を機に仕事を辞め、出産後は在宅での育児に余念がない。ある日の朝、いつものように夫は仕事で帰りが遅くなると言い残して出かけた。2歳になるJ君と丸一日向き合って過ごした後、疲れのためか食事の用意に気が乗らない。それでもJ君の食事を作ったが、いつもの反抗の時間が始まった。

食べるように促しても食べようとしない。何度こんなことを繰り返すのだろう、とM子は思う。そんないらだちと夫のいない不安とでついに手が出てしまう。J君の泣き声で我に返る。「大変なことをしてしまった」とその時は思った。しかし、次に訪れた同じような場面では、手を上げるのにそんなに時間はかからなかったし、後悔の気持ちも少なくなっていた。その後、これが繰り返されエスカレートしていった。

夫は、M子は人一倍子どもに対して思いやりを持って接していると感じ、それを誇りに思っていた。従って、通告により児童相談所が介入し、虐待のことを知った時、夫はどうしても信じられなかったのである。彼は自分の配慮のなさを悔やむことになった。

子どもの最善の利益、そしてそれを守る親と家庭という「育ちの環境」の中で児童虐待は起こる。虐待をする親は、子どもの最善の利益に心を配ることのできない冷酷な人間なのであろうか？M子は虐待をする親として世間の非難を受け、夫も苦しみ、子どもは一時保護された。担当したケースワーカーが話を聞く中で、かつて彼女が子どもを深く愛し、育ちを支える親であろうとしたことを知る。

「親である」とことと「親をする」とことの違いを、虐待に関わるケースワーカーたちは身をもって経験している。子どもを身ごもり出産すると、人は皆血のつながった親であり、「生物学的親」ということになる。これは社会的、法的に親と認められる状態のことであり、「親である」とことになる。しかし、子どもの命を見守り、その育ちを支え、応援する親となること、すなわち「親をする」とことはそう簡単ではない。

今は「親をする」とことが大変難しい時代であり、地域でともに暮らす私たちは、若い親たちが「親である」とことから「親をする」とことへと成長できるように育ちを見守り、応援しなければならない。地域で子どもの命を見守ることは、そうした応援なのである。…



ー有り難うございますー

日に日に暑くなっていく中、毎日登下校時に子どもたちの安心・安全のために見守ってくださっている「安全ボランティア・スクールガード」の皆さんや、保護者・地域の皆さん本当にありがとうございます。心から感謝申し上げます。今後ともどうか宜しくお願い申し上げます。

※ 「難波の梅小だより5月号」、『一年生を迎える会』の終わりのあいさつの所で、5年児童会書記『宮竹岳君』となっていました。『宮武岳君』の誤りでした。申し訳ありません、訂正いたします。

※ 6月1日(水)に『ミマモルメ』のテストメールを配信しますので、ご確認いただければと思います。